

世界に誇れる極上の会津米づくり「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米100%」

両沼地方稲作情報 飼料用「天のつぶ」令和3年6月29日

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)

- ◇ 飼料用米等への転換にご協力いただきありがとうございます。
- ◇ 主食用米と同様に適正な管理を行い、飼料用米としての適正な出荷をお願いします。

- 1 気象情報 (気象庁 東北地方 3ヶ月予報 (7月~9月) より)
7月~9月平均気温は、高い確率50%です。
7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
8月 東北日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
9月 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

2 生育概況 (6/22時点)

草丈、茎数、葉色ともに平年並みから平年を上回っています。中干しを遅れずに実施しましょう。

表1. 水稻作柄解析試験データ (会津地域研究所 6/22時点)

品種名		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	主稈出用(葉)	葉色(SPAD値)
天のつぶ	本年	43.9	575	8.8	44.1
	平年比	105%	101%	+0.3	+0.1
(参考) コシヒカリ	本年	42.6	661	9.4	41.5
	平年比	104%	110%	+0.5	+0.5

※移植日：5/20(中苗)、栽植本数：20.8株/m²(30cm×16cm)

※基肥窒素施肥量：天のつぶ 0.6 kg/a、コシヒカリ 0.3 kg/a

3 当面の技術対策 基本的に主食用米の管理と同様に行います

(1) 水管理について

- ・ 中干しは、1~2cmの割れ目が出来る程度まで、砂質土水田では細かい割れ目が出来る程度の軽めを目安とし、遅くとも幼穂形成期前までに終了しましょう。
- ・ 中干し後は、間断灌がいを行い根を健全に保ちます。低温(平均気温20℃以下、最低気温17℃以下)の場合は、深水管理(水深10cm)し、幼穂を低温から守りましょう。
- ・ 出穂期前後の10日間は花水(稲の花が咲く時期の水)が必要です。徐々に湛水管理としましょう。その後は間断灌がいとし、少なくとも出穂後30~35日頃までは水を切らさないようにしましょう。

表2. 幼穂形成始期と出穂期の平年値(会津地域研究所)

品種名	幼穂形成始期	出穂期
天のつぶ	7月11日	8月1日
(参考)コシヒカリ	7月15日	8月5日

(2) 穂肥について

出穂 25 日前に稲の生育を確認し、葉色およびほ場ごとの地力や土壌特性に応じて穂肥の量を調整しましょう。天のつぶは、**出穂 25 日前に窒素成分 2kg/10a** を基本とします。幼穂形成期の生育指標値（表 3）を参考に行いましょう。

[その他、注意点]

- ・過繁茂状態では特に倒伏に注意しましょう。病虫害発生リスクも高まります。
- ・葉いもち発病イネに、追肥を行うと発病を助長します。適切に防除し、病状の進行が止まってから判断しましょう。
- ・根腐れのあるイネでは、追肥により根腐れを助長します。落水によるガス抜き、土中への酸素供給により、根の活性を保ちましょう。

(3) 病虫害・雑草防除について

◆慣行栽培に準じ、適切な防除を実施しましょう。

- ・病虫害の発生状況及び発生予察情報も注視し、適切に防除を実施しましょう。
- ・ラベル等に記載の使用方法、使用量等農薬使用基準を遵守してください。

◆斑点米カメムシ類の防除について

- ・「一括管理方式」で、主食用米としての出荷もされる場合、必ず適期に防除を実施してください。（例：散布剤を乳熟期（出穂期 7～10 日後）とその 7 日後の 2 回散布。）
- ・耕種的防除として、畦畔の草刈りを行い、斑点米カメムシ類の発生密度を抑制しましょう。また、斑点米カメムシ類を水田内に追い込まないように、遅くとも出穂 10 日前には草刈りを終わらしましょう。
- ・周囲に主食用米が栽培されている場合、斑点米カメムシ類の発生源とならないよう、的確な管理が必要です。

4 収穫・乾燥・調製

- ・刈り取りは籾水分 25% 以下（籾の 90% 程度の黄化が目安）より行います。収穫前にほ場での立毛乾燥を可能な限り行い、効率的な乾燥に取り組みましょう。
- ・立毛期間中に倒伏、鳥害、穂発芽などの被害が発生する恐れもあるので、降雨情報とあわせて注意してください。

5 飼料用玄米に係る農産物検査規格について（農林水産省資料より抜粋）

項目 等級	最 高 限 度					
	水分 (%)	被害粒 (%)	異 種 穀 粒			異 物 (%)
			もみ (%)	麦 (%)	もみ及び麦を除いたもの (%)	
合格	15.0	25	3	1	1	1

規格外—合格の品位に適合しない玄米であって、異種穀粒及び異物を 50% 以上混入していないもの

- 1 水分の最高限度は、当分の間、本表の数値に 1.0% を加算したものとする。
- 4 玄米には、異物として土砂（これに類するものとして農林水産省政策統括官が定めるものを含む。）が混入してはならない。（農林水産省政策統括官が定めるもの＝石、ガラス片、金属片、プラスチック片）

表 3. 「天のつぶ」の目標と生育指標値

時期等	項目	会津
目標	玄米刈り入れ率 (%)※1	≤ 6.4
	農産物検査	1 等
幼穂形成期	茎数 (本/m ²)	580~660
	葉色※1	38~40
出穂期	止葉葉色※1	≤ 34
成熟期	登熟歩合 (%)	90
	穂数 (本/m ²)	470~500
	籾数 (x100粒/m ²)	320~350
	収量 (kg/10a)	700

※1 玄米刈り入れ率は水分 15% 換算、葉色は SPAD502 値

定義

被害粒—飼料用玄米にあつては、発芽粒、病害粒及び芽くされ粒をいう。

異種穀粒—その種類の玄米を除いた他の穀粒をいう。

異物—穀粒を除いた他のものをいう。